

納涼祭に関するアンケート結果報告（概要編）

2022/2/12 IT 推進委

HP のメルマガを使った「納涼祭」に関するアンケートを 1/8 に行いました。その時のアンケート結果の概要報告を以下に纏めました。

1 概要

(1) 回答者数

- 参加者：182 名、アンケート回答数：82 件（回答率：45%）
- 前回(活性化)と比べ回答者数が 1.5 倍 82 人、回答率が 27%⇒45%と大幅に向上し、しかも現役世代が過半数を超えた。
- 若い人が興味を持ってくれるようなアンケートを行うと、現役世代の取り込みが可能であり、より効果的な意思決定手段であることを示したと言える。

アンケート種別	回答者数	全体回答率%	現役比率% (60 才未満)	高齢者比率% (60 才以上)
活性化	47 人	27%	36%	64%
納涼祭	82 人	45%	57%	43%

(2) 開催の可能性

- 感染状況は全く予測できないとするも、開催に関しては何等かの内容見直し・対策実施をして開催した方が良いという人が 6 割近くになった。
- 開催日数については、全体でみると、2 日：42%、1 日に短縮：52%と拮抗しているが、高齢者世代では、2 日：50%、1 日に短縮：47%と拮抗するも現役世代では、2 日：35%、1 日に短縮：56%と、短縮案が過半数ということで世代差が出ている。

(3) 開催演目

- 盆踊りは必要で、櫓も業者委託で設営することで過半数を越える。
- 模擬店、小中学校の演奏、高校生のダンス、子どものゲーム、太鼓演奏、永谷天神囃子は継続支持が過半数を越えたが、子供神輿・山車、クーポン券の利用は賛否が分かれた。
- 一方、盆踊りの練習会は半数が中止を望んだ。

(4) 感染対策

- マスク着用は 8 割以上が必要と考えているが、入場時の体温測定等は半分弱程度であり、その他の飲食禁止パーティション等は 3 割程度以下で、コスト・作業増・効果等で悩みがある。ただ少数コメントとして野外では感染リスクは少ないとの意見もあった。
- 運用の外注化については、予算の範囲内で外注化というのが多く（約 44%）、外注化への期待

は大きい。

- 納涼祭の本来の趣旨については、子供の楽しみ・思い出、近所の人との交流が上がるも、高齢者の歓談への支持は少なく、時代が変わりつつあることを示唆している。
- 納涼祭のノウハウについては、マニュアル化すべきという要望が半数に達する。

(5) 運用関係

- 来賓席・敬老席については、意見が分かれたが、寄付については半数が必要と考えた。

(6) その他自由提案（何が大変か）

- 人材集め、役員自身で動かなければならない事が多すぎる。
- 全体のスケジュール調整、マネージメント

(7) その他自由提案（改善案の提案）

多い提案としては

- 予算内でイベント開催会社に依頼できる内容とか外注化を進めたいとする案が多い(9件)。
- 納涼祭特別委員会の設置。できるだけ早い時期から組織して準備に取り組む。
人員確保とスケジュール管理の徹底(5件)

他にも

- 日限山音頭を踊ってもらうためにも、若者の興味を引く盆踊りの歌をかける。(ダンシングヒーロー、バハマママ、1人の小さな手)。太鼓は若者に任せる。
- 接待をなくす、中止・廃止、実施時期を涼しい時期にする

(8) 総評

- この感染増加の中でも、納涼祭への期待は大きい。
- イベント会社の活用による役員負担低減のための計画作りが重要

2 アンケート結果に対する対応案

(1) 来期役員への対応案

- 納涼祭特別委員会の4月中スタート。全体スケジュール作成
(4月中に開催の仮決定をして、6月までに最終中止判断が必要)
- 過去の経験者の特別委員調整
- イベント会社調査・ヒアリングの早期実施
- マニュアルの作成(実施時は最初に整備計画を作成するのが効果的)

(2) 今期役員への対応案

- マニュアル化に必要な各部保存情報を一元化して来期役員に引き継ぐ
- アンケート結果の引き渡しとアドバイス。